



(1) アイダホ大学広島キャンパス

東広島キャンパスに2026年8月、開校予定。ベトナム、インドネシアなどから1学年100人を受け入れ、前半2年間は広島、後半2年間は米国アイダホで学ぶ。アイダホ大学は25年に全米の研究大学の格付けで最高ランクの「R1」指定を受けた。22年、アイダホ大学が被爆体験証言者の小倉桂子さんを招いた平和イベントをきっかけに大学間協定を締結した。

(2) Town & Gown構想

自治体（Town）と大学（Gown）が連携し、持続的な地域の発展と大学の進化を目指す取り組み。22年度に東広島市、民間企業10社で「広島大学スマートシティ共創コンソーシアム」を設立したほか、呉市、海上保安大学校など4者で「呉市・広島大学Town & Gown構想に関する協定」を締結。23年10月に立ち上げた「全国Town & Gown構想推進協議会」には現在、広島大学、東広島市、島根大学、愛媛大学、今治市、立命館アジア太平洋大学、呉市、出雲市、高知大学、南国市が参加、産官学連携のステップアップが期待される。

(3) 持続可能性に寄与するキラルノット超物質拠点（WPI-SKCM²）

世界で唯一のキラルノット研究の拠点として26年3月に専用研究棟の完成を予定。キラルノットとは左手と右手のように鏡映対称な性質（キラル）を持つ結び目構造（ノット）を指す。地球上の生命を構成するアミノ酸のほとんどは「左手型」のキラル分子だが、自然界がなぜそういう選択をしたのかは不明だ。WPI-SKCM²ではこのようなキラルノット物質を創出することで生命と素粒子・宇宙のキラリティー（対称性）の偏りの起源に挑み、新たな物質「キラルノット超物質」を用いて持続可能な社会の創生に寄与する研究拠点を目指す。

(4) 高大接続型プログラムを活用した新たな総合型選抜

26年度入試から、法学部と生物生産学部で高大接続型プログラムの受講を出願要件とする新方式の入試を総合型選抜Ⅰ型（大学入学共通テストを課さない）として実施する（各学部募集人員5人）。高大接続型プログラムは大学が提供するオンデマンド講義の受講やサマーキャンプへの参加等を通じ、これまでの学び（探究活動）と各学部とのマッチングを図る。さらに27年度入試ではこの方式を発展させた「育成型」入試を実施する（教育学部10人、生物生産学部5人）。



ひろティー®
-Protector of Peace-



霞キャンパスに整備されるワクチン・医薬品製造拠点（完成予想図）

力」です。スポーツや芸術、科学、ビジネスなどの第一線で活躍するリーダーの話から大学生活の目標や将来の夢を考える講義で、25年度は12人が講師を務めました。教養教育の充実と並ぶ大学教育の大きな柱です。11年度に全学部で必修化された「平和科目」では戦争や核廃絶、貧困、環境問題などさまざまな視点から平

和について自ら考え、「平和を考えるレポート」をまとめます。24年度からは一部の授業内で「被爆体験講話」を実施しており、高齢化が進む被爆者から学生が直接話を聞ける貴重な機会となっています。

社会貢献で国内2位の評価 最先端研究の拠点も続々と

グローバル化に対応した人材育成の観点では「Global Peace Leadership Program」という特定プログラムがあります。英語力に加え、多文化社会での課題解決力、リーダーシップ力、キャリア形成力を培います。また全学部生は入学時と3年次以降の2回、TOEIC[®]L&R IPテストを無料で受けられます。これらの特色ある学びを体系化しているのが「HEROSPECT[®]」と呼ばれる広島大学独自の到達目標型教育プログラムです。卒業に必要な主専攻プログラムに加え、他の主専攻プログラムを学ぶ副専攻プログラム、特定のテーマの学習や資格取得ができる特定プログラムで構成され、学生の多様な学びへの意欲に対応しています。

25年6月に発表された「THEインバクトランキング2025」で広島大学は総合スコアで北海道大学に次いで国内2位となりました。これは国連のSDGsの枠組みを使って世界中の大学を評価したのですが、東広島キャンパスが生物多様性の保全に貢献している区域として環境省

『自然共生サイト』に認定されるなど、SDG15「陸の豊かさを守ろう」をはじめ各項目の高い社会貢献度が今回の評価につながっています。国際的なインバクトは研究面でも顕著です。22年には文部科学省の「世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）」に採択され、持続可能性に寄与する「キラルノット超物質拠点」を立ち上げました。また同年、経済産業省の「ワクチン生産体制強化のためのバイオ医薬品製造拠点等整備事業」に大学として唯一、採択されました。越智学長は「26年9月完成を目指し、霞キャンパスに治験薬製造施設を整備します。感染症有事（パンデミック）の際は国の要請・指示に基づいてワクチン治験薬を生産・供給し、平常時はワクチン以外の医薬品を製造できるデュアルユース（両用）施設であり、国内でも希少です」と強調します。

一発勝負の入試を減らして 高大接続の取り組みを重視

広島大学は26年度入試（26年4月

入学）において女子枠を新しく導入します。「広島大学光り輝く入試」の総合型選抜Ⅱ型（大学入学共通テストを課す）と学校推薦型選抜Ⅰ型（大学入学共通テストを課さない）で合計37人（理学部7人、工学部15人、情報科学部15人）の募集人員を設けます。また、「できるだけ一発勝負の入試比率を低くしたい」（越智学長）との考え方から、26年度入試では探究活動に積極的に取り組んだ高校生らを対象に、学部が実施する高大接続型プログラムを活用した新たな総合型選抜の実施します。越智学長は受験生にこんなメッセージを送ります。「若者がSNSなどで部分的に切り取られ、自分が気に入るメッセージしか目にしない状況が生まれています。大学は正しい情報があるかを知る方法を学び、いろいろな人の意見を聞き、自分の頭で考えて進むべき道を見つけられる場です。人生は一度きりしかありません。広島大学を目指す皆さんにはぜひ、自分の夢や目標を定め、実現に向けてさまざまなことに挑戦してほしい。広島大学は、そんなあなたの挑戦を全力で応援します」



おちみつお
越智光夫学長

1977年広島大学医学部卒業。84年医学博士（広島大学）。専門は膝関節外科。島根医科大学整形外科教授、広島大学整形外科教授、同大学病院院長、同大学理事・副学長などを経て2015年より現職。19-21年文部科学省科学技術・学術審議会総合政策特別委員会委員、17-22年日本学術会議会員、11-17年および22年から日本学術会議連携会員。2015年紫綬褒章を受章。25年8月から国立大学協会副会長。

〒739-8511 広島県東広島市鏡山1-3-2 広報室 TEL 082-424-3701 <https://www.hiroshima-u.ac.jp/>

広島大学

101カ国・地域からの留学生が学ぶ
豊かな国際性と優れた教育・研究力で
世界の注目を集める「平和を創る」大学

建学当初から掲げた国際性 被爆80年の新たな取り組み

1949（昭和24）年に新制大学としてスタートした広島大学の初代学長は、戦後の片山、芦田両内閣で文部相を務めた森戸辰男です。戦前論文が右翼団体から攻撃され、東京帝国大学を追われた森戸は戦争に与しなかった数少ない知識人でした。衆院議員を辞して故郷（広島県福山市）の大学のかじ取りを担った森戸は「中国・四国地方の中心大学」「地域性のある大学」に加え、「国際性のある大学」をビジョンに掲げました（森戸三原則）。荒廃したキャンパスに緑や学びの心を取り戻そうと世界各国の大学、研究機関に手紙を送り、植物の種や苗、図書の寄贈を呼びかけました。広島大学はその成り立ちから平和を求める世界の人々とながかり、支えられてきました。

2025年6月、広島大学は米国アイダホ大学とグローバル半導体人材の育成を目的とした学士プログラムに関する協定を締結しました。アイダホ大学は森戸の訴えに応え、植

高度情報専門人材を育成し 科学で平和創出に貢献する

23年5月、安全・安心を実現する「創る平和」をテーマに、重点的に

物の種や平和研究のための学術資料を贈っていたいた大学の一つです。26年8月には、東広島キャンパスにアイダホ大学の広島キャンパスが設置される予定です。工学分野での米国大学の誘致は日本初です。現在、101カ国・地域からの2000人を超える外国人留学生が学び、大学間の国際交流協定も56カ国・地域の394機関と439件を締結しています。越智学長はこう話します。

「学長就任（15年）の当初から地域貢献と並んで国際化を大学運営の柱に据え、この10年間で海外機関との包括協定数を2.5倍にしました。24年にはアフリカ連合が設立したパンアフリカン大学と世界で初めての国際交流協定を結び、アフリカからの留学生も約100人います」

大学理念（理念5原則）の先頭に「平和を希求する精神」掲げる広島大学の特徴は平和構築に向けた取り組みです。23年に始まった「ピース・スタディツアー」は8月6日の「広島原爆の日」に合わせて海外大学の学生を招き、広島平和記念資料館見学やグルーブワークなどを行う催しです。25年は約140人が参加し、日本被団協や被爆体験証言者による特別講演も聞かれました。



アイダホ大学協定締結式（左は越智学長、右はスコット・グリーン学長）